

R6外部評価ヒアリング (R5事後評価)

ヒアリング調書 (3班)

令和6年度 行政評価外部評価ヒアリング 調書

事業名	高齢者福祉タクシー事業		
担当課	健康福祉課	担当係	福祉係
日時	7月11日 午前9時5分～午前9時28分		
質疑応答 (発言者)			
委員	①利用の仕方と、申請の流れについて教えていただきたい。 ②65歳の、免許を返納した時点で資格は発生するのか。 ③こういった事業を知らない町民に対してはどのように周知しているのか。 ④返納したときに知らなくても、あとで救済（利用）はできるのか。		
説明員	委員、施設職員等から提出いただくこともある。 ②免許返納時に資格が発生する。 ③広報で周知している。また免許返納された際、警察署や危機管理係の方でも説明している。 ④利用できる。		
委員	もともと免許を持っていない方についても対象となるのか。		
説明員	対象となる。		
委員	事務事業評価シートの「令和5年度に対応した主な活動」では交付枚数を増やす方向で見直しをはかったようだが、決算額が減になった理由は何か。		
説明員	全体的な申請人数が少なかったことが理由と考えている。申請人数が減る要因として考えられるのは、年齢が上がっても免許返納してしまうと通院や買い物など生活に支障が出るため、免許返納する人数が減ってきているのではないかと考えている。		
委員	①年代別の申請率について、把握しているのか。 ②免許返納後の移動手段として、タクシーとデマンド以外どのような方法があるのか。		
説明員	①この場には手持ちの資料はないが、年齢別、地区別も統計として出した上で、令和6年度の交付枚数の見直しを行った。タクシー料金が昨年6月に改定され、初乗り料金は下がったが実際に距離で換算した場合高くなったため交付枚数を増やして実質の負担は変わらないようにした。 ②町営バスや電車があるが、本数が少ないため非常に使いづらいため、デマンドの運行の仕方について、検討していく必要がある。福祉タクシーも人によって利用状況に差があり、単純に交付枚数を倍にすれば解決するわけではない。病院への通院に関しては、民間の事業者で専用のデマンドなどが運行しているところもあるが、そこだけですべてをカバーできるようわけではない。難しい問題で課題感が大きいと感じている。		
委員	①利用する時間帯に制限はあるか。 ②評価値がBで「改善」であるが、その理由は。改善に向けた具体的な取り組みは何か。		
説明員	①利用時間は業者にまかせている。 ②申請率が昨年より下がっている点が主な理由と考えている。		
外部評価の意見	関係機関と連携して町内全体の移動支援のあり方を検討していただきたい。		方向性
			改善

令和6年度 行政評価外部評価ヒアリング 調書

事業名	高齢者鍼灸マッサージ助成事業		
担当課	健康福祉課	担当係	福祉係
日時	7月11日 午前9時28分～午前9時40分		
質疑応答 (発言者)			
委員	①対象者について ②年齢引き下げは考えていないか ③申請率がだいぶ低い、町内の施術院に限られているためか。周知がなっていないからか。		
説明員	①遊佐町内に住民登録のある70歳以上の方、年度内に70歳になる方が対象者。 ②今のところ考えていない。 ③周知はしているが、他市町村の施術院に通われている方については、利用が町内の施術院に限られている点が理由になっていると考えられる。		
委員	町内の施術院という対象の数は。		
説明員	昨年度は5つあったが、1か所廃業し現在は4か所になっている。資料の通り。		
委員	①4つの対象施術院は保険がきかないところか。 ②対象者へ個別に周知はしていないのか。		
説明員	①基本的にはきかないのではないか。 ②個別にはしていない。施術院には申請書を設置し、説明してもらっている。		
委員	1回あたりの料金はいくらくらいなのか。それがわからないと助成金額の設定が難しいのではないか。		
説明員	平均いくらかは把握していない。		
委員	以前施術を受けた際の自己負担額は3,000円ほどだったと記憶している。		
委員	ずいぶん前だが、自分もそのくらいの負担額だったと記憶している。		
委員	3,000円くらいであれば、1/3の助成ということで妥当ではないか。 個人によって通院頻度や通い方も異なる。一人当たりいくらくらいの自己負担が生じているかを見ないと、設定は難しいのではないか。		
説明員	申請人数は140人くらい、ひとり6枚なので840枚、利用したのが475枚分ということで56.5%という利用率になっている。6枚は2ヶ月に一度くらいの通院頻度を想定していて、酒田市や鶴岡市の率を参考に設定している。		
委員	補助金があるから施術を受ける人もいる。利用率は低いがこれで通院する方もいるはずである。鍼灸院にとっても集客のメリットあるため、このまま利用者が増えていけばいいと思う。		
外部評価の 意見	施術院と連携を密にし、引き続き事業を実施していただきたい。		方向性
			継続

令和6年度 行政評価外部評価ヒアリング 調書

事業名	寝具乾燥消毒サービス事業		
担当課	健康福祉課	担当係	福祉係
日時	7月11日 午前9時40分～午前9時52分		
質疑応答 (発言者)			
委員	リピーターが多いことから見ても、町民から支持されている事業かと思う。これからも継続してほしいと思う。		
委員	①利用の場合、何組でも出せるのか。 ②対象世帯は何組ほどあるのか。 ③3枚以上に増やしてほしいという要望はあるか。		
説明員	①夫婦二人であれば6枚まで出せる。65歳以上の人数が何人かによる。65歳以上の人数×3組という考え方になる。 ②昨年は1,600世帯ほど。 ③予算もあるので3枚までとしている。それ以上は自己負担でお願いしている。委託先の料金は上がっているが、自己負担として設定している600円は、なるべく上げないで続けていきたいと考えている。		
委員	こういった業者は何社ほどあるのか。		
説明員	県内で扱える業者は限られていて、米沢市の業者と契約している。間に町内の業者から入ってもらい、回収等は町内の業者に委託している。		
委員	①回収日について、要望があった日に来てもらうことができるのか。 ②令和6年度は年1回ということによろしいか。		
説明員	①回収日は決まっていて、事前に福祉課から時間帯を対象者へ連絡し、調整できる部分は委託業者から調整して対応してもらっている。 ②1回の予定である。		
委員	該当する人にとってはとてもいいサービスだと思う。家で行うのは難しいことなので、もう少し周知などで広がればいいかと思う。		
説明員	委員やケアマネージャーなどから声掛けしてもらっている。HPにも掲載している。		
外部評価の 意見	高齢者の衛生的な環境作りのため、引き続き事業に取り組んで頂きたい。		方向性
			継続

令和6年度 行政評価外部評価ヒアリング 調書

事業名	重度心身障害者紙おむつ支給事業		
担当課	健康福祉課	担当係	福祉係
日時	7月11日 午前10時28分～午前10時36分		
質疑応答 (発言者)	<p>委員</p> <p>①該当する対象者は何人くらいか ②制度の周知は行っているのか。 ③教育費については無償化などの話もあるが、所得制限は必要か。 ④物価が高騰しているが、金額の変更を検討しているか。</p> <p>説明員</p> <p>①所得要件あるので、それを加味した個々の人数は把握していない。 ②対象者は障がい者手帳や療育手帳を持っている方になるので、福祉課窓口で手帳の申請をした際に制度について案内はしている。 ③要件である世帯の生計中心者の所得税額について、16,501円以上の世帯であっても月額2,000円以内の補助は行っている。低所得の方を支援するという意味では、所得制限は必要と考えている。 ④現時点では検討していない。近隣の市町村でも変更するような動きがあれば検討していく。</p> <p>委員</p> <p>教育無償化などの社会情勢もある中で、所得要件がなくなったとしたら対象人数はかなり増えるのか？</p> <p>説明員</p> <p>所得要件については所得税額が16,501円以上の人でも申請すれば月額2,000円の補助が受けられるため、全体的な対象者人数が増えるというわけではない。</p>		
外部評価の 意見	物価高騰を考慮しながら、引き続き支援を続けていただきたい。		方向性
			継続

令和6年度 行政評価外部評価ヒアリング 調書

事業名	地域支え合い体制づくり事業補助金		
担当課	健康福祉課	担当係	福祉係
日時	7月11日 午前10時37分～午前11時00分		
質疑応答 (発言者)			
委員	令和5年度の担当課年度評価では「見直しが必要である」と明記しているが、具体的にはどういった方向で見直しをはかっていきたいのか。		
説明員	昨年度、集落公民館を対象に実施している36団体に対して「ニーズ調査」を実施した。その中で事業について活用していないが必要物品があると回答いただいた集落について、ピンポイントで声掛けを行い、申請につなげたいと考えている。		
委員	令和4年度に実施状況やニーズ調査を行い、交付対象の拡大を検討するとあるが、その後の状況について教えていただきたい。		
説明員	今回36団体に調査を行い、必要物品があるかないかに関して、ないと答えた集落が13集落あったため、対象集落へピンポイントに働きかけて利用をすすめていきたいと考えている。複数回の申請に変えられないか検討していただきたいと、前回の事業評価の中でご意見いただいたわけだが、今回の調査でまだ活用していない集落も半数近くあったわけなので、まずは働きかけを行う。		
委員	介護予防事業を行うために必要な物品というのはどういったものか。		
説明員	介護予防事業というのが主に100歳体操というものを想定している。必要な物品は、TV、DVDプレーヤー、ダンベル、座椅子、低い椅子などになる。		
委員	年間1回ではなく、1回申請したら終わりということか。		
説明員	そのとおりである。まだ申請いただいていない団体への申請勧奨を優先したいと考えている。		
委員	物を購入するだけではなく、講師への受講料などとしても利用できるのか。		
説明員	要綱上では、介護予防事業を実施するための必要な物品を購入するためとあるので、あくまで物品に限られる。		
委員	109集落のうち77集落が活用している状況だが、老人クラブが解散していれば申請できないのか。現在老人クラブが解散している情報が耳に入っているが。		
説明員	老人クラブが解散した集落は申請ができないという理屈にはなってしまう。老人クラブは、現在高齢の方でも就労されている方が増えてなかなか人が集まらない、役員のなり手がいない等の事情で会の継続が難しくなっている。		
外部評価の 意見	未申請の集落の活用につながるよう、周知を工夫していただきたい。		方向性
			改善

令和6年度 行政評価外部評価ヒアリング 調書

事業名	放課後児童クラブ事業		
担当課	健康福祉課	担当係	子育て支援係
日時	令和6年7月11日 11時35分～12時00分		
質疑応答 (発言者)			
委員	令和5年度の決算が令和4年度の2倍となっている。改修工事が行われているが、改修工事の内容と改修した理由は何か。		
説明員	旧蕨岡小学校の南側校舎について改修を行った。学校施設から児童養護施設に使用方法が変わったため内装を燃えにくいものに変更したり、エアコンのない部屋があったためエアコンを設置するなどの改修を行った。		
委員	放課後児童クラブの定員数は。		
説明員	国の基準では40名となっている。遊ぶ塾では40名としており、ぽっかぽかクラブは45名となっている。		
説明員	定員からあふれた場合は子ども教室に行くのか。		
説明員	今後新しく立ち上げるなど、放課後児童クラブについて整備を検討している。		
説明員	放課後子ども教室が児童クラブのような受け入れが出来なくなった場合、受け皿を作る必要がある。今年度から放課後児童対策推進会議を立ち上げ、受け皿作り等について検討を行っている。		
委員	夏休みの利用増が考えられるが、その解決策はあるか。		
説明員	夏休みの数日間だけ使いたいという声もある。子ども教室は事前登録のため、児童クラブのみの受け入れとなる。ぽっかぽかの場合50人を超えているため、断る場合もある。家庭の事情を考慮し優先順位をつけ対応している。また、昨年度から自由の森というプレーパークができた。そちらを案内するなどの対応を行っている。		
委員	祖父母と同居でも利用できるのか。		
説明員	利用可能である。		
委員	成果指標設定の考え方はこれでいいのか。		
説明員	2月に次年度の募集について取りまとめている。転入等もあり希望人数を上回ることもある。		
外部評価の 意見	希望する児童を受け入れできるような体制整備を図っていただきたい。		方向性
			改善

令和6年度 行政評価外部評価ヒアリング 調書

事業名	子育て支援センターの運営事業		
担当課	健康福祉課	担当係	子育て支援係
日時	令和6年7月11日 13時00分～13時20分		
質疑応答 (発言者)			
委員	課題にある「庄内地域わくわく☆スタンプラリー」とは。		
説明員	県で実施している庄内地域の保育施設を巡るスタンプラリー事業である。その事業に参加することで、町の施設を周知し新規の利用者増を図っている。		
委員	子どもセンターの利用者数は。		
説明員	昨年度は未就学児が8,437名、小学生が3,949名、保護者含める一般の方等が8,194名で合計が20,490名でした。令和4年度が13,000名を超えるくらいだった。コロナ禍の頃より回復してきている。		
委員	土日は開催しているのか。		
説明員	土日も開催している。平日より土日の方が利用者が多い。		
委員	子どもセンターで様々な事業を行っているが、アンケート結果は反映しているのか。		
説明員	アンケート結果反映したうえで、職員が検討し実施している。		
委員	新規開拓が課題とあるが、リピーターが多いのか。		
説明員	町内の利用者ではリピーターが多いが、町外の利用者では新規が多くなっている。		
委員	土日の開催とあるが、開館のみで事業は実施していないのか。		
説明員	土日の来館者は多いが、職員が2名の配置となっている。人員配置の課題もあり、事業の開催は行われていない。		
委員	土日なら親子でイベントに参加できることもあるため、そういった方をサポートしてほしい。		
説明員	土日の利用者が多いため、職員の配置を多くするなど検討をしたい。		
委員	すくすくクラブの参加人数は。		
説明員	昨年度は182名の参加人数である。		
委員	子どもセンターのおもちゃで傷んでいるものがある。決算内容で36万円程あるが、物品の購入なのか。		
説明員	物品の購入や、イベントの際の消耗品の購入となる。		
委員	一時預かりの利用件数は。また、条件はあるのか。		
説明員	昨年度は1組の利用。今年度は既に2件利用いただいている。条件は特にないが、前日までの予約はお願いしている。		
委員	子どもセンターに預けられることを知らない人もいると思う。		
説明員	周知について検討したい。		
外部評価の 意見	引き続き子育て世代が利用しやすい運営を行っていただきたい。		方向性
			継続

令和6年度 行政評価外部評価ヒアリング 調書

事業名	育児支援家庭訪問事業		
担当課	健康福祉課	担当係	子育て支援係
日時	令和6年7月11日 13時20分～13時40分		
質疑応答 (発言者)			
委員	この事業は他の自治体でも実施しているのか。		
説明員	酒田市や庄内町等でも実施している。		
委員	1人しか利用していない理由はあるのか。		
説明員	困っていても他人を家に入れることに抵抗があるため利用されない等の理由がある。		
委員	貢献度の高い事業だと思う。信頼関係を築きながら家庭の負担軽減の解決策はあるか。		
説明員	平成24年に多胎児に対応するため要綱を改定し、対象年齢を1才から2才に引き上げた。		
委員	ヘルパーはどういった人が担っているのか。資格は必要か。		
説明員	社会福祉協議会に高齢者のヘルパーをされている方に、エンゼルヘルパーをお願いしている。エンゼルヘルパーに資格は特に必要ない。		
委員	貢献度の高い事業と思うが、方向性は縮小なのか。		
説明員	人によっては利用に抵抗があるが、一度利用すると継続して利用していただいている。まずは1回利用していただけるように検討したい。		
委員	ヘルパーの方は、利用する家庭が何を支援してほしいのか把握はしているのか。		
説明員	町と利用者と委託先の3者で面談している。ヘルパーに支援内容を伝えている。		
委員	母子手帳をもらう時に周知を行い、積極的に利用してもらえるようにしてほしい。		
委員	利用を遠慮しているわけではなく、利用する必要がない家庭環境もあると思う。		
委員	子育て世代の意見を聞きながら事業を進めてほしい。		
委員	利用者の「利用して良かった」という声を伝え、利用の増加に繋げるなどしてほしい。		
外部評価の 意見	関係機関と連携し、必要な人に支援が届くようにしていただきたい。		方向性
			改善

令和6年度 行政評価外部評価ヒアリング 調書

事業名	すくすくゆざっ子支援金支給事業		
担当課	健康福祉課	担当係	子育て支援係
日時	令和6年7月11日 13時40分～14時00分		
質疑応答 (発言者)			
委員	年3回支給の理由は。		
説明員	先に子育て世帯移住奨励金や児童手当が実施されていたため、それらの支給に合わせ3回とした。		
委員	令和5年度の予算と決算額が離れている。予算は何を基に算出しているのか。		
説明員	予算は出生数を基に算出している。11月に予算を立てるため、前年度の予算や傾向も参考としている。		
委員	支援金は一時所得となるとあるが、ちゃんと処理されているか把握しているか。		
説明員	町民課に支給した実績を報告し、対応を行ってもらっている。		
委員	様々な支援を行っているが、出生数は少なくなっている。取り組みはしているか。		
説明員	子育て支援係としては、子育て世代への手厚い支援が考えられる。子育て支援係だけでは限界があるため、全課体制で環境を整える必要がある。		
委員	支給方法は。		
説明員	口座振替で支給している。		
委員	児童手当や出産祝い金と併せて支給されるのか。		
説明員	支給される。		
外部評価の 意見	適切な支給事務処理のもと、引き続き事業を継続していただきたい。		方向性
			継続

令和6年度 行政評価外部評価ヒアリング 調書

事業名	子育て世帯移住奨励金交付事業		
担当課	健康福祉課	担当係	子育て支援係
日時	令和6年7月11日 14時00分～14時20分		
質疑応答 (発言者)			
委員	課題にあるバランスとは何か。		
説明員	本事業は5年間定住しないと奨励金の返還の必要がある。また、町税に滞納がある場合は支給ができない。すくすくゆざっ子支援金事業にはそういった条件がない。		
委員	返還の未納はないのか。		
説明員	全て返還してもらっているため未納はない。		
委員	移住者への周知方法は。		
委員	ホームページでの周知や、定住促進係に情報提供し、イベント等で周知してもらっている。		
委員	警察官などは対象にならないのか。		
委員	業務命令等で転入した公務員は支給対象とならない。		
委員	返還を逃れるような実情は把握しているか。		
委員	返還については説明の際に強調しているため、世帯の判断で制度を利用しない場合もある。		
委員	何才まで対象か。		
説明員	15才まで支給対象となる。		
外部評価の 意見	適切な制度説明を行い、引き続き事業を継続していただきたい。		方向性
			継続

令和6年度 行政評価外部評価ヒアリング 調書

事業名	あわびの放流事業		
担当課	産業課	担当係	水産林業係
日時	令和6年7月12日 9:00～9:25		
質疑応答 (発言者)			
委員	あわびの水揚げ量が減っている要因は？		
説明員	専門家の意見では温暖化による海水温の上昇により生息域が変わってきていることが要因のひとつではないかとのことでした。		
委員	あわびの稚貝の購入先は？		
説明員	鶴岡市の『山形県栽培漁業センター』		
委員	アワビが採れるまでの期間は？昔から遊佐で採れていたのか。		
説明員	3年から4年程度。昔から遊佐沖でアワビが採れたが海水温の上昇等で水揚げが減ってきているので、この事業を行わないとさらに減ると思われる。		
委員	密漁などはあるのか。		
説明員	令和2年度の時点ではふるさと納税の返礼品。令和3年度以降はふるさと納税の返礼品にプラスして湯楽里や道の駅ふらっとで販売を行っている。さらには庄内総合支庁の職員にも販売を行っている。遊佐の新たなブランドとしたいがなかなか水揚げが増えないため販路が拡大できない。		
委員	アワビの放流箇所と放流方法について		
説明員	女鹿や吹浦が中心だが適当な時期・場所については漁協に一任している。放流方法は潜水し磯場の岩の隙間に1つ1つ差し込むように行う。		
委員	ここ数年の水揚げ量の減少の要因は。		
説明員	はっきりしたことは言えないが海水温の上昇により餌場が移動しているのではとの意見がある。		
委員	アワビの採り方は？		
説明員	基本的に素潜り。現在素潜り漁師は20数名いるが全体的に高齢化している。		
委員	採るときの基準はあるのか？		
説明員	数センチ程度の小さな個体はとらない。3年以上のものを採っている。		
外部評価の 意見	漁業収益向上に努め、着実に進めていただきたい。		方向性
			継続

令和6年度 行政評価外部評価ヒアリング 調書

事業名	あわび陸上養殖事業		
担当課	産業課	担当係	水産林業係
日時	令和6年7月12日 9:25~9:50		
質疑応答 (発言者)			
委員	この事業はいつから行っているのか。		
説明員	平成27年から漁村センターで行っている。		
委員	トータルの費用と売り上げについて。		
説明員	3月議会でも質問があったが、約1億円だった。売り上げは数十万程度。一応事業は継続となったが3か年計画で地域への波及効果を外部コンサル等を活用し検証していくことになっている。		
委員	これまでの販売等の取り組みと、今後の取り組み予定は。		
説明員	令和2年度の時点ではふるさと納税の返礼品。令和3年度以降はふるさと納税の返礼品にプラスして湯楽里や道の駅ふらっとで販売を行っている。さらには庄内総合支庁の職員にも販売を行っている。遊佐の新たなブランドとしたいが出荷数が増えないため販路が拡大できない。		
委員	以前電力会社でアワビの養殖を行い、様々な工夫を凝らして販売を行ったが結局採算が合わなかったと聞いている。そのためアワビの養殖に良いイメージがない。そういった話を聞いているので、1億円もかけるのは不思議ではない。		
委員	3年で効果が出なければ、事業中止もありえるのか。		
説明員	ありえる。		
委員	ふらっとでもあまり見かけることがないが、売れているのか。		
説明員	昨年の夏は高温のため育ったのは半分程度。ほとんど流通できなかった。		
委員	管理は誰が行っているのか。		
説明員	前は職員が行っていたが、現在は委託している。		
委員	今後3年間のビジョンは。		
説明員	ふらっとが窓口となって行ってもらう予定。第5事業部に販路拡大の営業を行ってもらう。他にもイベント等行えたらと思っている。		
委員	3年を行うのか。		
説明員	全国的にも成功例は少ないと聞いている。これ以上継続できないと判断した場合は途中で中止の決断をする可能性もある。施設もあわび専用でなく狭いためそういったことも出荷数の拡大につながらないのではと思っている。		
外部評価の 意見	委託業者との連携を図り、飼育体制の強化及び販路拡大に取り組んでいただきたい。		方向性
			改善

令和6年度 行政評価外部評価ヒアリング 調書

事業名	サケふ化場増設更新事業		
担当課	産業課	担当係	水産林業係
日時	令和6年7月12日 9:50~10:06		
質疑応答 (発言者)			
委員	新たな放流事業の具体的な内容とは。		
説明員	現在太平洋側はほぼサケが採れない。北海道のオホーツク海側はサケ遡上の先進地となっているため視察等を行い技術の向上を目指す。		
委員	水揚量が減った要因は。		
説明員	専門家の意見では海水温が2度上昇していることが要因の1つと考えられている。今後も世界的に海水温の上昇が続くとも言われているので、漁獲量の減少に悪影響があるのではと懸念している。今後建築が行われる洋上風量についても、どのような影響があるのか注視していきたい。		
委員	施設の改修には県の補助金等は使えないのか。		
説明員	水産業成長産業化支援事業補助金を活用して一部改修を行っている。		
委員	サケふ化場には観光バスが多く来ているがトイレの問題はどうなっているのか。		
説明員	トイレのない施設にはハイシーズンのみ簡易トイレを設置している。		
委員	ふ化場は特産品のサケを知ってもらうための貴重な観光地となっている。バスで多くの観光客(年配が多い)が来るのでぜひトイレの整備をしてほしい。		
委員	放流事業には町内の児童は参加について。		
説明員	遊佐小学校の児童のみ参加している。		
外部評価の 意見	先進地の事例も参考にしつつ、計画的に進めていただきたい		方向性
			継続

令和6年度 行政評価外部評価ヒアリング 調書

事業名	立地企業支援事業		
担当課	産業課	担当係	産業創造係
日時	令和6年7月12日 10:33~10:48		
質疑応答 (発言者)			
委員	月光川蒸留所㈱のウイスキー蒸留所新設と竹本産業㈱のラード工場増設により雇用は増えたのか。		
説明員	増えたと聞いていい。		
委員	募集人数通り集まってないと聞くが、どうなのか。		
説明員	その通り。昨今の人手不足が影響していると思われる。		
委員	バイオ発電所に関連する事業の情報は。		
説明員	町が把握している情報としてはバイオ発電所に関連した運送関係の会社と砂を扱う会社から問い合わせがあった。		
委員	バイオ発電所から出る灰（煤）の取り扱いは。		
説明員	バイオ発電所では煙突から空中に散布する灰（煤）は出ない。		
委員	立地企業への固定資産税100%奨励金について、企業としては奨励金が雑所得扱いになり税金がかかる。奨励金よりも固定資産税免除の方が企業にとって良いのではないか。		
説明員	免除できるか関係法令を確認する必要がある。		
委員	事業の概要①～④をすべて満たす企業はあるのか。		
説明員	ほとんどの企業が①と④。すべてに該当する企業はいない。		
委員	町が行っている誘致活動は。		
説明員	東京や山形市で行われている合同説明会への参加がメイン。他にも進出を考えている企業があれば直接訪問等行っている。		
外部評価の 意見	雇用促進に繋がるよう、計画的に実施していただきたい		方向性
			継続

令和6年度 行政評価外部評価ヒアリング 調書

事業名	ビジネスネットワーク事業		
担当課	産業課	担当係	産業創造係
日時	令和6年7月12日 10:48~11:05		
質疑応答 (発言者)			
委員	ビジネスネットワーク協議会運営に参加している企業の数は。		
説明員	現在29団体。(→後日訂正。33団体)		
委員	R4年からR5年の決算額が大きく増えた要因は。		
説明員	R4年までコロナで活動出来なかったが、R5年度から通常の活動に戻したため。		
委員	何度か協議会に参加しているが不活発な印象がある。多くの団体が参加しているが発言しているのは一部の企業のみで他は見ているだけ。そのためなのか当初は会社の代表が出ていたが代理出席が目立ってきた。		
	協議会に参加すると年2回遊佐町の特産品が会社に届くが、個人でもらう訳にもいかないし、更には分けにくいので送られてくるたびに苦慮している。これは本当に必要なのか。		
説明員	今回の意見を今後の参考とさせていただきたい。		
委員	企業訪問では町職員以外も行くのか。		
説明員	豊島区で行うまるっと遊佐では商工会の会長に行ってもらったこともあった。セミナーは町職員のみ。		
委員	15回の事業を行った成果は。		
説明員	今のところ目に見える成果はないが、この事業の目的が企業同士のネットワークの構築や情報交換等を目的としている。		
委員	R4年度の新卒者の地元就職には繋がっているのか。もしわかれば人数も。		
説明員	資料を持ち合わせていないためわからない。		
外部評価の 意見	ネットワークを活かし、より一層企業の誘致に努めていただきたい。		方向性
			継続

令和6年度 行政評価外部評価ヒアリング 調書

事業名	遊佐ブランド推進事業		
担当課	産業課	担当係	産業創造係
日時	令和6年7月12日 11:06~11:30		
質疑応答 (発言者)			
委員	ECサイトで取り扱っているものは。		
説明員	ふるさと納税の返礼品として取り扱っている品を中心に載せている。		
委員	ECサイトに移行した理由は。		
説明員	収益性の向上やマンネリ化を打開するため。道の駅ふらっとにお願いしているのは生産・販売の実績があるため。		
委員	月毎に売り上げに差がある理由は。		
説明員	季節により採れるものが違うため。(ゆぎウイスキーが出ると売り上げが上がる)今後の推移を見守りたい。		
委員	R3・R4の決算額が低い		
説明員	コロナのため対面での販売がなかなか出来なかったためと思われる。		
委員	遊佐カレーは作っているのか。		
説明員	カレールーは食彩工房が作り、カレー自体は県外企業へ委託している。(県内に加工場がないため。)焼酎の耕作君も県外企業に委託している。		
委員	町内の共同加工場はあるのか。		
説明員	旧八福神を使っている。		
委員	ぜひ遊佐町にも焼酎等の加工ができる工場を誘致してほしい。		
説明員	できたら良いと思っている。		
外部評価の 意見	ネット販売の活用方法を工夫し、遊佐ブランドの周知と売上額の向上を図っていただきたい。		方向性
			改善

令和6年度 行政評価外部評価ヒアリング 調書

事業名	産地化推進作物転作促進支援事業		
担当課	産業課	担当係	農業振興係
日時	令和6年7月12日 13:04~13:25		
質疑応答 (発言者)			
委員	農家にとって大事な補助事業と認識している。町内での畑地化の面積は。		
説明員	今年度は5件程度。		
委員	来年から5年に1回の水張問題が出てくる。田と認められなければ補助金はなくなるのか。		
説明員	田と認められなくなれば補助対象から外れる。		
委員	転作した作物への補助は。		
説明員	転作した作物が米の販売額と同程度になるように補助している。		
委員	近年の物価高に対して。		
説明員	農協と連携しブランド化を目指して作物を選び単価を調整している。全ての作物を対象にすることはできない。		
委員	いつまで補助はもらえるのか。		
説明員	転作と認められればもらえる。単価は毎年変動する。		
委員	転作作物の確認は。		
説明員	毎年農家が提出してくる野帳と現地確認をしている。秋には出荷確認を行う。		
委員	売れなくても補助はもらえるのか。		
説明員	出荷販売し申告があった分についての補助。販売しない場合は対象とならない。収入減少分は、収入保険などで補う。		
委員	この補助は農家にとってなくてはならないものである。遊佐だけでなく日本全体の作物バランスの維持に必要なもの。		
外部評価の 意見	引き続き、地域振興作物の積極的な拡大を図っていただきたい。		方向性
			継続

令和6年度 行政評価外部評価ヒアリング 調書

事業名	まるごと遊佐推進事業		
担当課	産業課	担当係	農業振興係
日時	令和6年7月12日 13:25~13:39		
質疑応答 (発言者)	<p>委員 資料にある写真の会場(神奈川県:せやデポー)では試食以外にも販売は行っているのか。</p> <p>説明員 資料の店舗では通年を通して遊佐米などを販売してもらっている。今回は店舗内に試食ブースを作ってもらった。今後もPRを中心に行っていく予定。</p> <p>委員 農協の開発米部会で年15回程度(1回3人)関東に出張している。遊佐の米や野菜等の生産者が直接PRに行くことで安心安全な作物をPRしている。</p> <p>説明員 今年には町長も加わり、トップセールスも行った。遊佐産品の周知に繋げたい。</p> <p>委員 実際に遊佐町の商品は売れているのか。</p> <p>説明員 売れていると聞く。生活クラブは以前から食の安全に力を入れている。そのため遊佐町のように直接生産者を連れていくことは、遊佐の周知、消費者の反応の確認、食の安全とお互いにとって利益のあるものと思われる。</p> <p>委員 生活クラブ会員との交流は。</p> <p>説明員 行っている。</p>		
外部評価の 意見	引き続き、消費者と生産者の交流を図り、遊佐産農作物のアピールに取り組んでいただきたい。		方向性
			継続

令和6年度 行政評価外部評価ヒアリング 調書

事業名	チャレンジファーム事業					
担当課	産業課	担当係	農業振興係			
日時	令和6年7月12日 13:39~13:57					
質疑応答 (発言者)	<p>委員 本事業を活用してR5年度に就農した人数は。</p> <p>説明員 1人。</p> <p>委員 就農せずに途中でリタイアした人もいるのか。</p> <p>説明員 いる。個別の事情で断念する方がいる。</p> <p>委員 チャレンジファームの体験者の年齢は。</p> <p>説明員 この事業は49歳以下を対象としている。30代~40代が多い。</p> <p>委員 農業で生活が成り立つまで補助してくれるのか。</p> <p>説明員 2年間は本事業で補助する。就農後3年間も別の補助金が活用できる。年2回の面談等が必要。</p> <p>委員 3年間で定着した人数は。</p> <p>説明員 13人中10人</p> <p>委員 就農者が主に作っている作物は。</p> <p>説明員 トマト、パプリカ、アスパラガス 主に扱いやすいハウス栽培が多い。水稲については農機具等が高額なため難しいのではと思っている。</p> <p>委員 今でも役場に相談等はあるのか。</p> <p>説明員 年に数名いる。農業に少し興味を持って、という人もいる。その時は、現実は大変であるとも伝えている。</p>					
外部評価の意見				就農者のサポート体制の充実させ、事業に取り組んでいただきたい。		方向性
						継続